

五所川原市 市浦地区 十三湊歴史観光MAP

十三湖があるこの地域は、今からおよそ600年前の中世の頃、津軽の豪族・安藤氏が拠点にした場所である。「十三湊（とさみなと）」と呼ばれたこの地で、日本海を通じた北方交易による拠点港として繁栄を極めたのである。ここには、安藤氏が残した遺跡が数多く眠っているのだ。
さあ、！歴史ロマンを求め、中世都市「十三湊」の世界を散策しよう！！

また、太宰治が小説「津軽」の中で、「浅い真珠貝に水を盛ったような、気品はあるがはかない感じの湖である」と評した十三湖もみてね！

⑧ 霧山（もやま）
標高152m。アイヌ語地名とされる。また、岩木山と高さを競った伝説を持つ。岩木山と同日の旧暦八月一日にお山参詣が行われる。車で頂上付近まで行くことができる。

⑦ 古館遺跡と「磯松の一本松」
熊野神社の北側に並ぶ丘陵先端部にある。これまで安藤氏の館跡とされてきたが、平安時代の環壕集落とみられる。また、近くには市天然記念物「磯松の一本松」がある。

⑥ 唐川城跡展望台
展望台から見える景色は絶景。天気が良ければ、岩木山も見える。安藤氏が支配した西浜の世界を一望しよう。

⑤ 山王坊遺跡（さんのうぼういせき）
谷の奥につくられた中世の宗教施設。十三千坊（とさせんぼう）の中心とされる。杉の大木に覆われ、屋でも薄暗く、まるで苔寺（こけでら）のような雰囲気。境内には発掘調査で検出された礎石跡が見学できる。

① 福島城跡・外郭 土塁／空堀／門跡
ここから中世十三湊の世界が始まります。かつては土塁に突き当たると空堀に沿って、門跡（関所）を通過し、内郭へ向かった。ここでは、ぜひ車を降りて、土塁の上を歩いて、門跡のある説明板まで行ってみよう。土塁や堀跡の大きさを体感してみてね。

③ オセドウ遺跡
縄文時代前期～中期のヤマトシジミを中心とした貝塚。大正12年に人骨一団が発見された。円筒土器が命名された遺跡として有名。

⑨ 市浦歴史民俗資料館
十三湊遺跡と安藤氏を中心とした展示。発掘調査で出土した、たくさんの出土品もここに展示されている。

④ 相内・蓮華庵の板碑
蓮華庵境内には山王坊周辺から発見されて運ばれた石造物が多く残る。市有形文化財の板碑5基もある。

⑩ 十三湊の土塁と堀跡
旧十三小学校周辺が十三湊遺跡最盛期の中心部。校庭南側には今も土塁や堀跡が残る。

② 福島城跡・内郭
周囲を土塁と堀で囲まれた約200m四方の方形居館跡である。近年の調査で安藤氏とみられる居館跡（武家屋敷跡）の一つが発見されている。

⑪ 土塁南側地区
発掘調査によって、道路に沿った街区・屋敷跡が発見されている。

⑫ 伝・檀林寺跡
十三湊南端にある中世寺院跡が発掘調査で明らかとなった。

⑬ 浜の明神跡
十三往來に登場する「浜之大明神」と伝えられる。十三湊へ出入りする船の安全を祈願する社であった。元治元年（1864）に本田水戸口を開削した際に神社の境内を拡張したところ神仏古像119体が発見された。

⑭ 中世の水戸口跡
安藤氏の時代には、ここから船が出入りしていた。「古水戸口（ふるみとぐち）」と呼んでいます。

- 十三湊関連遺跡
- ← 見学ルート
- 📍 見学場所
- ⛩ 神社
- 🏯 寺院
- 🍴 食事処
- 🚻 トイレ
- 🅑 駐車場
- 🏥 診療所
- 🏕 キャンプ場

<問い合わせ先>

〒037-0401
青森県五所川原市相内 349-1（市浦総合支所）
五所川原市教育委員会
社会教育課 十三湊発掘調査室
TEL: 0173-35-2111（内線 4030・4071）

<アクセス方法>

- ① JR五所川原駅前から十三湖までバスで70分。
（青森空港から連絡バスに乗り五所川原駅前まで55分・1,000円）
- ② 東北自動車道・浪岡ICから十三湖まで車で60分。
- ③ JR蟹田駅前から十三湖まで車で45分。

